

健康経営の成果開示 に関する私見

健康投資WG 主査

産業医科大学 産業生態科学研究所

産業保健経営学研究室

教授 森 晃爾

産業保健経営学



産業医科大学
University of Occupational and Environmental Health, Japan

UOEH

2,000法人の評価結果の一括開示：様々なステークホルダーによる活用

- 令和4年3月15日に2,000法人分の評価結果（フィードバックシート）を経済産業省ウェブサイトで一括開示。



フィードバックシート1頁目

＜重点を置いている施策についても開示＞

■重点を置いている具体的な施策とその効果

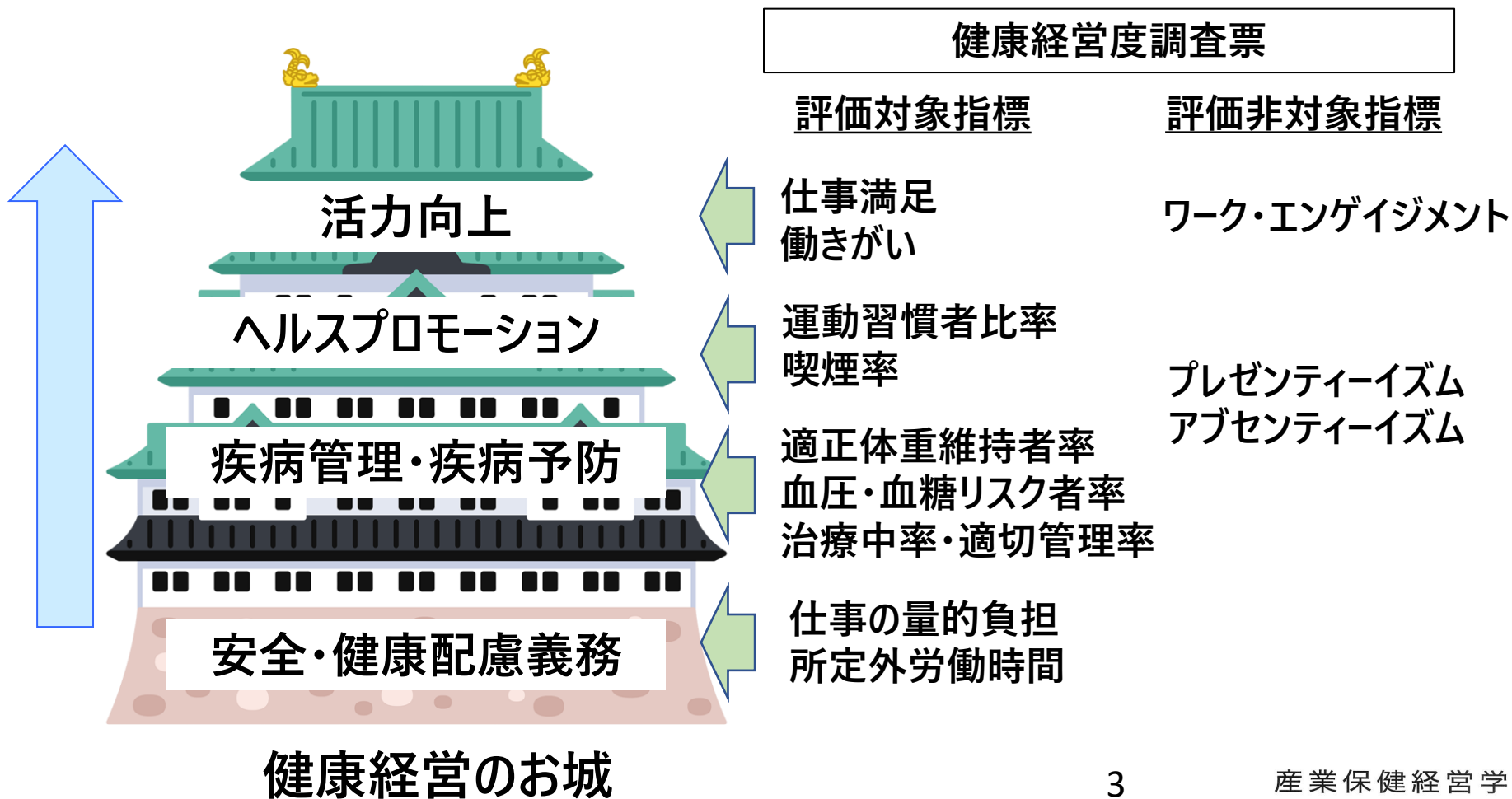
効果検証①	課題のテーマ	健康状態にかかわらず全従業員に対する疾病の発生予防
	課題の内容	●健康データ分析から、生活習慣との関連が深い健診項目の有所見率が高止まり傾向（脂質59.0%、BMI（肥満）30.9%）にある。 ●特に、脂質については加齢と共に有所見者の割合が増加していることから、若年社員も含めて全社的に、運動や食事等の生活習慣の改善を図ることが喫緊の課題である。
効果検証②	【2019年度実績】	生活習慣リスク該当率：運動82.8%、食べる速度35.6%、多量飲酒31.3%
	施策実施結果	①スモールチェンジ活動 日常生活で続けやすい健康行動を各自が目標設定し、生活習慣改善、健康増進に繋げる活動、参考参加率：54.0% ②ウォーキングラリー ①目標カードを携行し会議で取組状況を話題にする等、健康を意識する職場風土が醸成。 ②目標歩数の達成者率：61.7% ●生活習慣リスク該当率が改善し、健康経営指標の向上に繋がっていることが確認できる。 【20年度実績】生活習慣リスク該当率：運動81.3%（-1.5%）、食べる速さ35.5%（-0.1%）、多量飲酒26.1%（-5.2%）、プレゼンティーズム：76.8、ワークエンゲージメント2.686

フィードバックシート3頁目

- 健康経営に取り組む法人（経営者や健康経営担当者等）が他者の取組を参照。
- 学生等が就職する企業・団体等を選定する際に参照。
- 自治体や金融機関、取引相手等が各法人の健康経営の実践状況をチェック。
- ヘルスケアサービスを提供する企業が営業に活用（「生活習慣病」のキーワードで検索等）。

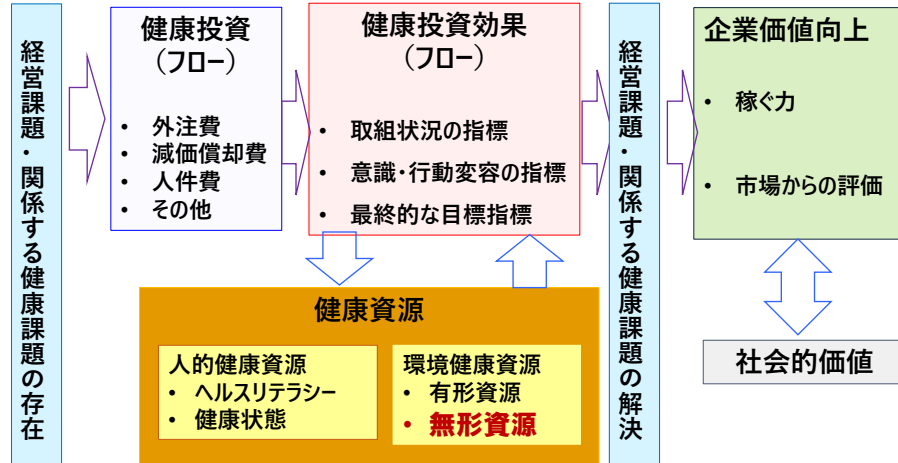
成果指標の評価・開示状況

取組状況だけでなく、成果指標についても、段階的に開示が進められている。



“無形資源”と指標の評価・開示について

経済産業省：
健康投資管理会計ガイドライン(2020)より



無形資源 健康経営の成果として生じた職場風土

人材に関わる直接的な経営指標となりうる

- ・ 経営層として何を把握したいか？
- ・ 投資家は、何を評価したいか？

・ 健康経営度調査の中での指標化と開示の検討が必要

健康経営指標として見なすうる
無形資源の指標

- ・ **Perceived Organizational Support**
従業員は、ウェルビーイングの実現に向けた会社の支援姿勢を、どのように認知しているか？
- ・ **Workplace Social Capital**
従業員とおしの結びつきや信頼関係は、どの程度強いのか？
- ・ **Psychological Safety**
従業員は、どの程度、職場で安心して自分の考えを述べているのか？

※これらの要素は、パフォーマンス指標、離職意識等の経営指標の先行要因となる。

※POSは、コロナ禍でも、健康経営における重要な指標となりうることを示されている。